

### 「誤解」の惑星

大学院総合研究部 教育人間科学域 教育学系

ヒロセ ノブオ  
広瀬 信雄 教授



- ◇ スペードの女王・ペールキン物語
- ◇ 大尉の娘

プーシキンA. S. 著, 神西清訳 岩波書店

ことばは人間にとってやっかいなものだ。自分の考えや思いを十分伝えられた時はたいそう便利な道具であるが、そうでない時は非常に困った道具と化す。さらに困るのは考えや思いを上手に伝えたつもりでも、相手には、例の「誤解」という現象を生み出すことである。（この事実はネット社会で、より明確になった。）だから「沈黙は金、雄弁は銀」などと言う。世の中の人々は誤解の洪水の中で暮らしているのだ。

研究上、ささやかな翻訳作業を要する小生にとって、上記の問題は避けて通れない。話しことばでも書きことばでも状況は同じだが、とりわけ後者の場合、誤解は深刻である。

こんな時、手元に置くのはプーシキンA. S. (1799-1837)の短編、その神西清(1903-57)訳の日本語版『スペードの女王・ペールキン物語』や『大尉の娘』(岩波文庫)である。原著の偉大さに論の余地はない。しかし原著(の一部)が露文和訳問題として課されても、神西訳のようにはならない。

同じことばが多く誤解を生む、と書いたが、それこそが文学作品の特質でもある。同一文章でいくつもの違った考えや思いを想起させる力が作品に宿っている。だから「読み返すたびに新発見がある」などという。この無限の力に気づかせてくれたのはヴィゴツキー L. S. (1896-1934)である。入門は『はじめて学ぶヴィゴツキー心理学』, 最高峰は『思考と言語』(新読書社)。後者は読みにくく、訳文は日本語として不自然である。最初からは勧めない。

所蔵あり

- \* スペードの女王・ペールキン物語 一本館2F文庫新書書架 983/SUP
- \* 大尉の娘 一本館2F文庫新書書架 983/TAI
- \* はじめて学ぶヴィゴツキー心理学 一本館2F一般書架 371.45
- \* 思考と言語 一本館2F一般書架 376.11

### 日常に統計学的発想が 応用できる。

医学部 歯科口腔外科学講座 歯科口腔外科

ウエキ コウイチロウ  
上木 耕一郎 教授



- ◇ 統計学が最強の学問である【実践編】  
—データ分析のための思想と方法

西内啓 著  
ダイヤモンド社

大学に属する者の大きな仕事の 하나가研究であり、基礎、臨床研究で出てきたデータを統計処理ソフトの力を借りて、客観性を持たせた結果として発表するのが当たり前のようになっている。あらゆる事象において統計学は非常に重要で、最終的な結論を左右してしまう道具であるのかもしれない。本書は、このことを実に直接的に読者に訴えかけている。「統計学が最強の学問である」というタイトルが何ともインパクトがあり、さらに一般のビジネスマン用ということから、比較的わかりやすく書かれている。統計学的発想が多くビジネスにおける成功への鍵であるというものである。著者は高度な生物統計学を専門にしておられるので、何気に難しい用語、数式に出くわし、難解な部分もみられるが、これらを十分理解できなくても学生諸君が概念をつかむにはいい本であると思う。筆者いわく統計学は人間の行の因果関係を洞察すること。それ以外には現状の把握と今後の予測であると謳ってということからも、このような統計学的考え方はあらゆる日常において応用されることが具体的な例を用いて記されている。科学を志す者のみならず、ビジネス、さらには日々の行動においても有利に立ち振る舞うことを目指している者にとって、あまり構えることなく読み流せる入門書なのではないかと思う。実践編の前に「統計学が最強の学問である」が入門編として出版されていますのでこちらも一読してみたいかでしょう。

所蔵あり

⇒ 医学分館2F開架図書(第二) 350.1 / DET